

抱返頭首工流域の水田水温と気温・日照時間の関係（1998年）

早期警戒情報においては、気温・日照時間・降水量が冷害危険度地帯別に過去7日間の移動平均で示されています。これらのデータと水田水温（午前9時測定）との関係を整理してみました。抱返頭首工流域にもっとも近い監視地点アメダス角館を使用しました。

1998年度は水温測定が日単位で測定されたため、過去7日間の移動平均を用いて関係を図示することにします。

1) 日最高気温と水田水温の関係（図1参照）

- 最高気温が25度を超えたのは6月24日で、幼穂形成期よりかなり早い時期にあたる。
- 6月24日以前においては、水田水温と最高気温との間には2,3度程度の差はあるが、両者はほぼ同じよう値で推移した。

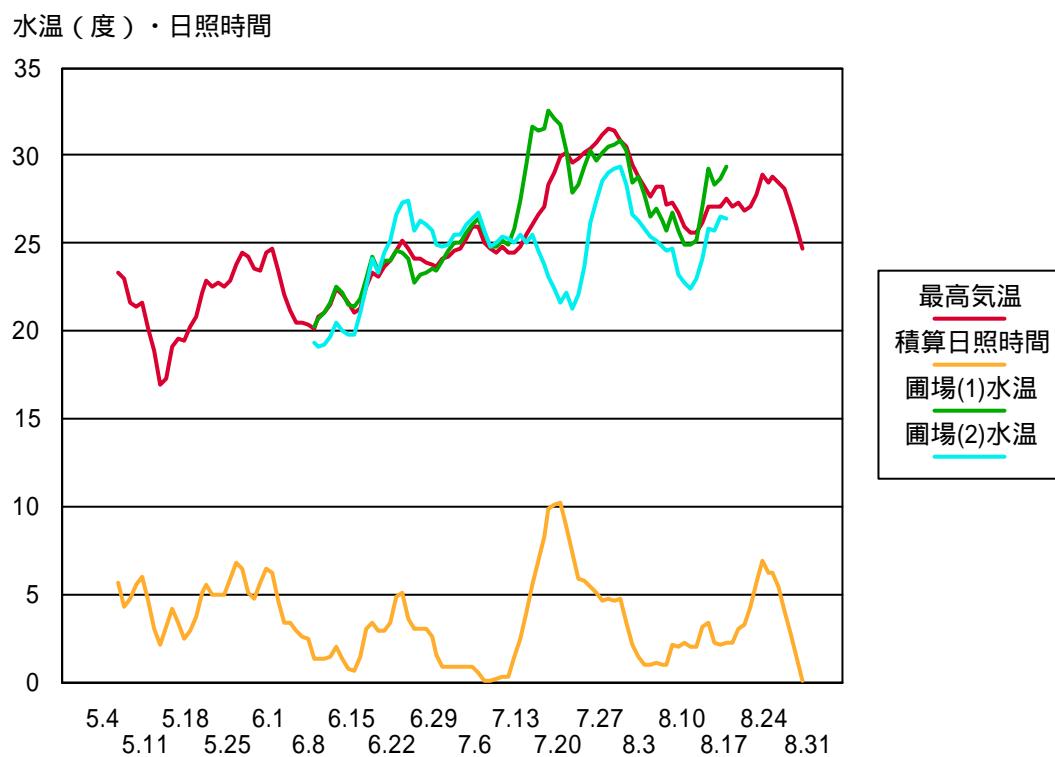


図1 アメダス角館の最高気温と水田水温(午前9時)の推移
1998年度
過去7日間の移動平均

2) 日最低気温と水田水温の関係（図2参照）

- 最低気温が17度を超えたのは6月30日で、幼穂形成期よりかなり早い時期にあたる。
- 水田水温は全期間を通して最低気温より高く推移した。

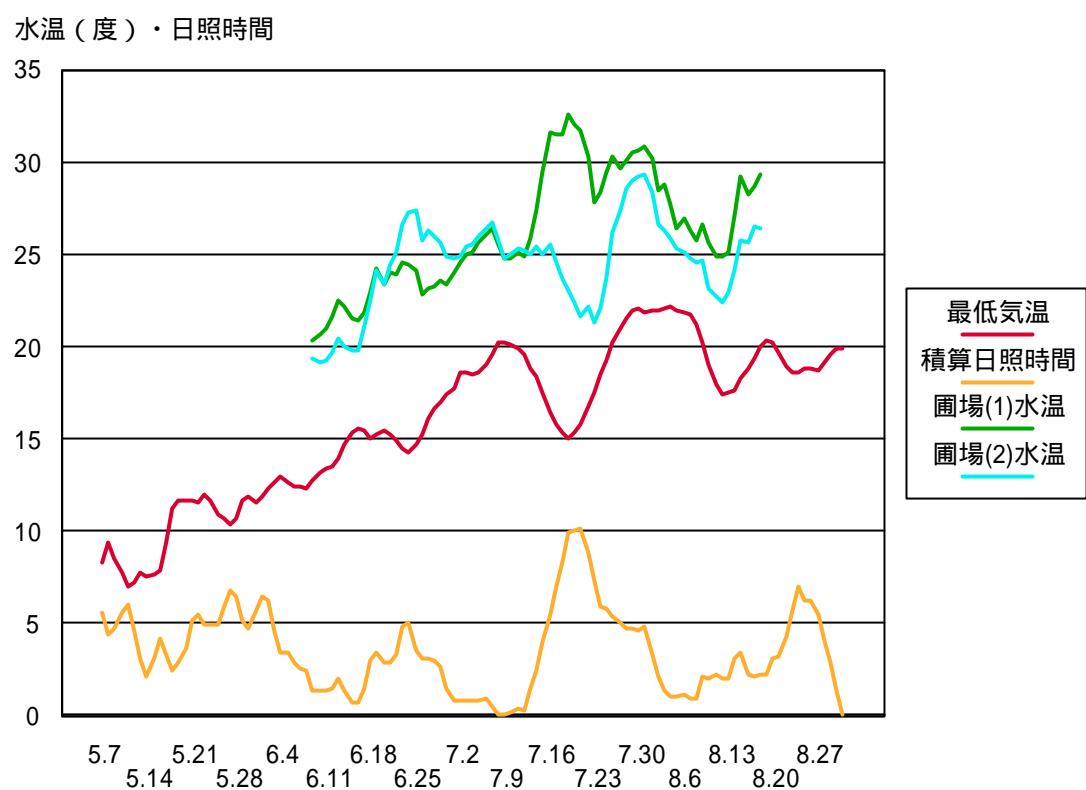


図2 アメダス角館の最低気温と水田水温(午前9時)の推移
1998年度
過去7日間の移動平均

3) 日平均気温と水田水温の関係(図3参照)

- ・平均気温が20度を超えたのは6月27日で、幼穂形成期よりかなり早い時期にあたる。
- ・6月27日以前においては、水田水温は平均気温よりも常に高く維持された。

水温(度)・日照時間

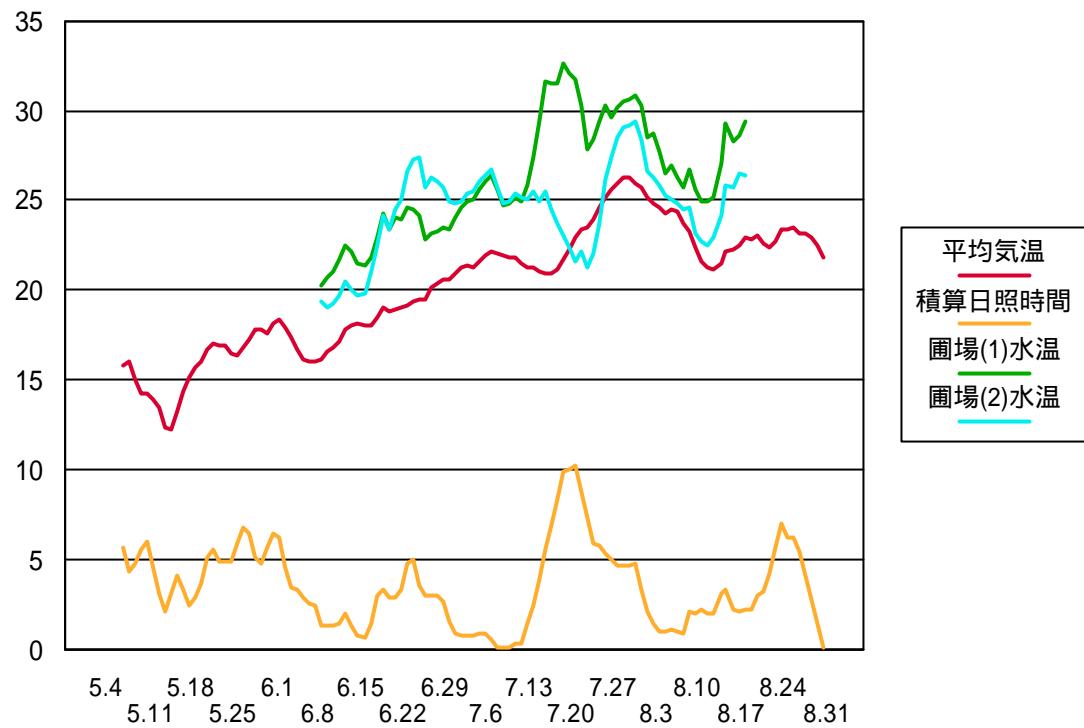


図3 アメダス角館の平均気温と水田水温(午前9時)の推移
1998年度
過去7日間の移動平均